

実践報告

札幌市立平和小学校

(1) 研究内容

研究課題：「課題2「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究」

○札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の施設見学と同施設の体験プログラム活用によるアイヌ民族の歴史及び文化理解

(2) 実践の内容

【実践①】サッポロピリカコタンへ行こう

○ねらい

アイヌ民族の歴史や文化についてお話を聞き、交流や体験活動を行うことで理解を深める。

○学習内容

- 1 講話を聞く。歌舞・楽器演奏等の公演を鑑賞する。
- 2 アイヌ古式舞踊や歌を体験する。
- 3 アイヌ民族の昔遊びを体験する。
- 4 屋内展示物や屋外の展示施設を解説していただきながら見学する。
- 5 質問と自由見学。
- 6 「サッポロピリカコタン新聞」を作成する。



【実践②】アイヌ文様の作り方を伝えよう

○ねらい

アイヌ文様の意味や活用の仕方、伝承の仕方について理解を深める。

○学習内容

- 1 アイヌ文様についての学習を行う。
- 2 アイヌ文様を制作する。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 「サッポロピリカコタン」の活用によって、アイヌ民族の方々から直接お話を聞くことができた。そのことで、歴史や現代の課題などを共感的に学ぶことができた。また、歌や踊り、そして遊びの体験活動から、アイヌ文化について楽しく学ぶことができた。見学のまとめとして「アイヌ新聞」づくりを行ったことで、施設の内容や特色についてより理解が深まった。
- ・ アイヌ文様づくりは体験プログラムの後に行った。体験活動の後は、よりアイヌ文化への理解が深まり、アイヌ文様づくりにも生かされた。

② 課題

- ・ 本校と施設が離れていることから、現地学習として活用した。学習の前後に活用できるとより理解が深まるだろう。
- ・ 今回は、4年生の学習として行った。北海道に暮らす子どもたちなので、低学年からアイヌ民族の歴史や文化について理解を深めるとよいだろう。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 学校の中に、アイヌ民族の文化に触れることができる衣装や文様、読み聞かせや読書の時間に活用できるような本などが充分にあると、低学年から、アイヌ民族の歴史や文化について、より身近に感じ、更に理解を深めることができる。
- ・ 指導者が理解を深めて学習を進めることが大切だが、施設を活用することや札幌市アイヌ教育相談員を招いて学習することを積極的に進めてみるとよい。